



生命の輝きを映す黄金の花

## マリーゴールド

マリーゴールドは、鮮やかな黄色やオレンジ色の花を長く咲かせるキク科の一年草で、夏から秋の花壇を明るく彩る代表的な花です。原産地はメキシコや中央アメリカで、強い日差しにも負けない丈夫さから公園や街路、家庭の庭先まで幅広く植えられています。

丸くこんもりとした花姿は存在感があり、花壇の縁どりや寄せ植えでも調和のとれた景観づくりに役立ちます。名前は「聖母マリアの黄金の花」に由来するそうです。

れ、太陽のようにあたたかな印象をもたらします。花言葉は「生命の輝き」「可憐な愛情」などで、前向きで明るい気持ちを象徴する花として親しまれています。初夏から晩秋まで続く豊かな花期は、季節の移ろいを穏やかに伝えてくれます。

堺・緑のミュージアムハーベストの丘（堺市）や長居植物園（大阪市東住吉区）、神戸布引ハーブ園（神戸市中央区）など、関西でもいろいろな場所で観賞することができます。

|      |   |                             |
|------|---|-----------------------------|
| 9/1  | 火 | 防災の日                        |
| 4    | 金 | 大安                          |
| 7    | 月 | 白露                          |
| 9    | 水 | 重陽                          |
| 10   | 木 | 大安                          |
| 14   | 月 | 大安                          |
| 20   | 日 | 彼岸入り 大安                     |
| 21   | 月 | 敬老の日<br>秋の全国交通安全運動（～30日）    |
| 22   | 火 | 国民の休日                       |
| 23   | 水 | 秋分の日                        |
| 25   | 金 | 十五夜                         |
| 26   | 土 | 大安 彼岸明け                     |
| 10/1 | 木 | 共同募金（～2027年3月31日）           |
| 2    | 金 | 大安                          |
| 8    | 木 | 寒露 大安                       |
| 10   | 土 | 第80回 国民スポーツ大会<br>（～20日・青森県） |

### 9月 シティ信金行事予定

- シティ信金写経会  
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 内外情勢調査会大阪シティ支部9月例会  
16日 正午から 帝国ホテル大阪にて  
講師：産経新聞社 編集局 編集長／BSフジ「プライムニュース」キャスター 水内 茂幸氏
- シティ経営者クラブ「接遇講座」  
10月7、8日 午前9時30分から  
本店2階大ホールにて  
講師：有限会社オフィスウエダ 代表取締役 中小企業診断士 上田 実千代氏
- 地元への奉仕活動（清掃） 全店舗で実施

### シティ信金協賛等行事予定

- 大阪クラシック2026  
6～12日 大阪市中央公会堂 ほか
- 大阪市長杯2026 世界スーパージュニアテニス  
21～27日 モリタテニスセンターうつぼにて

## Monthly essay



## ヒガシ繁盛記

### 大

大阪府などが進める「大阪城東部地区」開発のトップを切った大阪公立大学の森之宮キャンパスが開校したのは2025年9月24日。1年前である。大学を街づくりのコアに据えるという、キタ、ミナミとまったく趣を異にする「東の拠点」づくり。静かなスタートだったが、大阪の新たな魅力に直結する。ヒガシ繁盛記から目が離せない。

ヒガシの主役は公立大新キャンパスと、大阪メトロ新駅・駅ビル（28年春開業）、1万人超の大規模アリーナ（28年度以降開業）の3者。周辺に商業施設やホテル、マンションなどが展開する。「歩行者デッキ」がキャンパス・アリーナ・新駅・JR環状線大阪城公園駅を結び、拠点全体の回遊性を担保する。

地上13階建ての公立大新キャンパスに立った。6000人の学び舎は夏休みではほぼ無人。

大学ビルを背に西を望むと、正面、JR環状線の向こうに親指大の大阪城天守閣、右手に大阪ビジネスパーク（OBP）の高層ビル群。目の前の道路をはさんでアリーナ、その右に新駅ビルが出来るわけである。

アリーナ予定地の向こうにメトロの検車場が広がっている。大阪・関西万博の際、臨時車両のプール基地になり、大量増便を実現した。留置線の一部が新駅・駅ビルになり、側線の一つがメトロ中央線とつながる。

一帯は「大阪砲兵工廠」の敷地内だった。阪神甲子園球場35個分、6万人が働く巨大軍事工場は終戦前日の空襲で灰燼に帰し、跡地西半分に出来た公園、大阪城ホール、OBPが大阪のにぎわいを牽引してきた。にぎわいを「残り」東半分に進め、新たな拠点を目指すのがヒガシ。新キャンパスから眺めると、その狙いがすんなり入ってくる。

気になるのは大学と大阪の「疎遠さ」。高度経済成長以降、大阪市内から大学移転が相次ぎ、4万人近い学生が転出したと言われる。26年現在市内の大学は15校。神戸市17校の後塵を押し、京都市29校の半分。東京23区101校は背中も見えない。

メトロ森ノ宮駅に引き返しながらか、昔訪れた米ハーバード大学を思い出した。パブは客であふれ、窓の外の大学図書館は日付を超えてなお満員だった。感心したら学生に言われた。「隣のMIT（マサチューセッツ工科大学）のやつらは寝てない」。遊と学、ハイブリッドなエネルギーが街全体に放たれていた。

パブと深夜図書館を作れという話ではない。大学は地域に開かれたキャンパスづくりにまい進し、地域は大学をリスペクトする。疎から密へ——。「大学とともに成長する」ヒガシ繁盛記はそこから始まる。

（わ）